* * * *

筆者の一人である古木による小笠原諸島産の採集品と，広島大学にある堀川芳雄博士採集による中および南硫黄島産のケビラゴケ属を調べ，6種を見出した。その内の1新種（オガサワラケビラゴケ，新称）は，東南アジアに分布する *Radula gedena* Gott. に類似するが，後者は葉下片の仮根基部がいちじるしく乳房状に突出すること，葉上片の細胞の大きさと形がきわめて不揃いであることで識別できる。6種の内，新種は母島の固有種である。*R. retroflexa* と *R. javanica* は東南アジアから太平洋諸島の広い地域に分布圏をもち，残りの3種は，中国から日本に分布する。小笠原諸島の *Radula* フロラは琉球列島のそれによく似ている。

□中国科学院登山科学考察队（编）：**天山托木尔峰地区的生物** 353 pp. 1985. 新疆人民出版社，乌鲁木齐市. 5.00元. 中国科学院登山科学考察队が1977-78年に実施した，天山山脈の最高峰である托木尔峰（7435.3 m）の調査報告である。哺乳類，鳥類，昆虫が前半の165頁までに，高等植物（苔類1種，蘚類27種，羊歯類8種を含む），真菌類，地衣類が後半に収められている。それぞれの生物群については，分布に関する考察があり，目録がこれに続いている。地衣類について云えば，この地区に特徴的な種，たとえば *Acarospora gobiensis* や *Anaptychia ulothricoides* のようなものが，もう少し多くてもよいように思われる。（黒川 逍）

□「熊本の野草」編集委員会：**熊本の野草〈下〉夏～秋編** 308 pp. 1986. 熊本日日新聞社，熊本. ¥2,800. さきに紹介した上巻に続くもので，同様なスタイルである。巻末に上下巻にわたる和名の索引がある。本書は初心者の利用を目的としているようで，植物名には学名が示されていない。より高度の利用のためには参考書が挙げてあるので，これらによることを期待しているためであろう。これも一つの行き方であるし，私も最近までその方が実際的であると考えていた。ところが環境庁の「身近な生きもの調査」で，対象植物を和名のみで指定し，学名を示さなかった結果，どういう植物が報告されたのか全くわからなくなってしまい，調査が無意味になったという事例がおこったので，あらためて学名の役割の重大さを認識した。とくに最近では一般参加による環境調査報告が学術的にも利用される情勢なので，アマチュアといえども学名の意義を理解する必要がある。したがってこれからさき，本書のような影響力の大きい参考書の著者は，自らの判断で学名を選択し，和名で示した植物の適用範囲をはっきりさせなければならないだろう。本書の図鑑，参考書としての有用さは十分認めたうえで，将来の一般論としてこういうことを言うのをお許し願いたい。（金井弘夫）